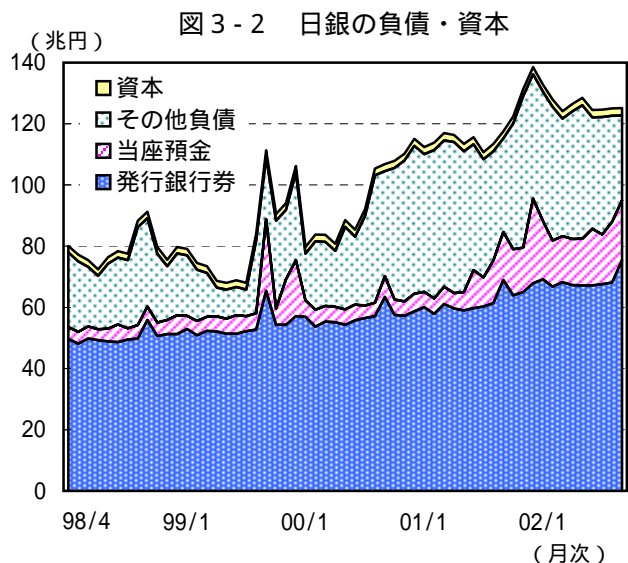
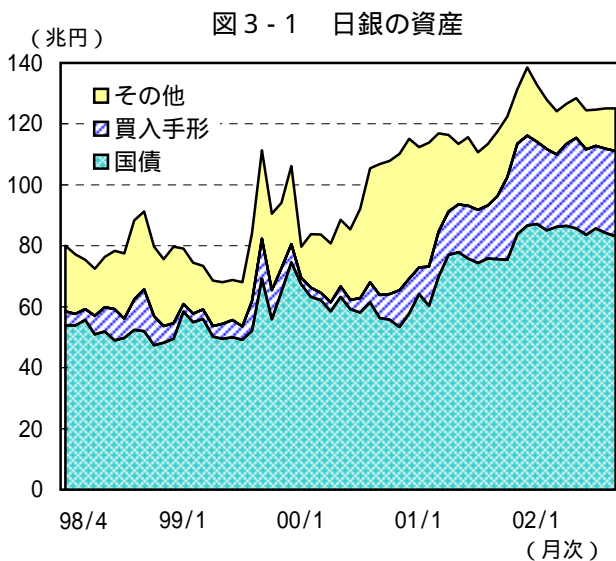
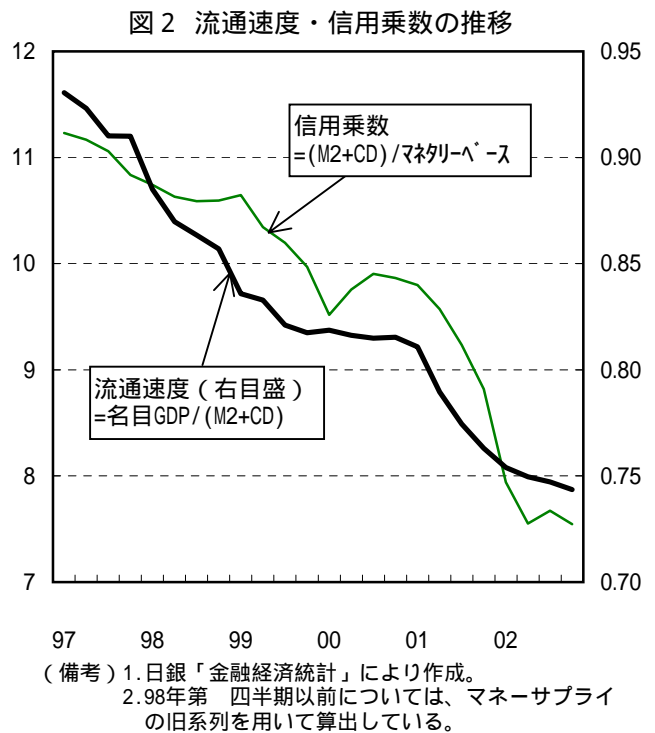
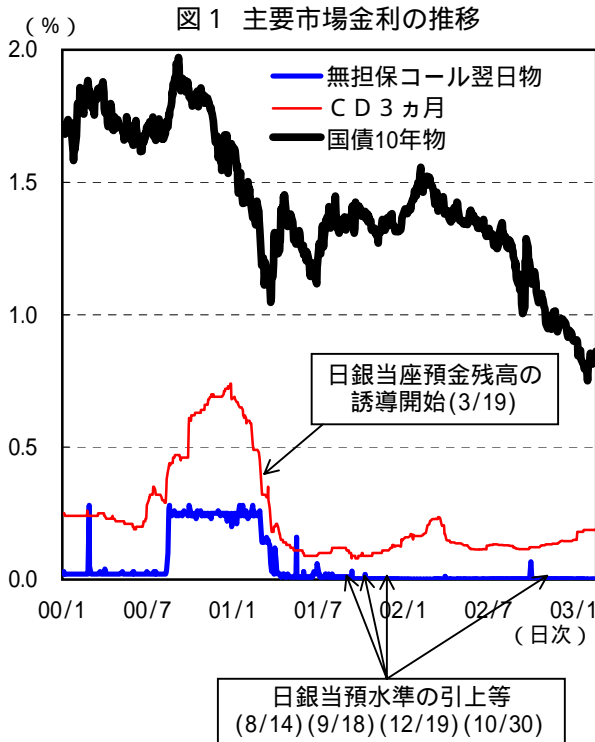




最近の金融緩和政策の影響

- 2001年3月に日銀当座預金残高を誘導目標に定めてから、コール金利はほぼゼロ水準、国債10年物利回りに代表される長期金利も1%を切る水準まで低下を続けてきた(図1)。
- 日銀当座預金残高を誘導目標として増加させているものの、信用乗数及び貨幣の流通速度の低下(図2)によりその効果が減殺されており、マネーサプライの増加、さらには名目GDPの増加に結びつかないのが現状である。
- マネタリーベースの増加を目指した金融緩和政策の結果、日銀の総資産はこの4年間で1.5倍程度に膨らんでいる(図3)。



(備考) 1. 図表3-1、2ともに日銀「金融経済統計」により作成。
2. 月末値。

【調査部(経済調査担当) 加賀林 陽介】

お問い合わせ先 日本政策投資銀行調査部

Tel: 03-3244-1840

E-mail: report@dbj.go.jp